

定期作況報告

令和元年10月
(10月20日現在)



道総研

北見農業試験場

1. 気象経過

9月下旬：最高気温は平年に比べてやや高く、最低気温は平年よりやや低く、平均気温は平年並であった。降水量は平年より多かった（平年比161%）。日照時間は平年並であった（平年比113%）。

10月上旬：最高気温、最低気温、平均気温ともに平年より高かった。降水量は平年より多かった（平年比153%）。日照時間は平年並であった（平年比108%）。

10月中旬：最高気温は平年に比べてやや低く、最低気温、平均気温はともに平年並であった。降水量は平年並であった（平年比85%）。日照時間は平年並であった（平年比93%）。

以上のことから、この1か月間（9月下旬～10月中旬）は、気温は平年並、降水量はやや多く、日照時間は平年並みであった。

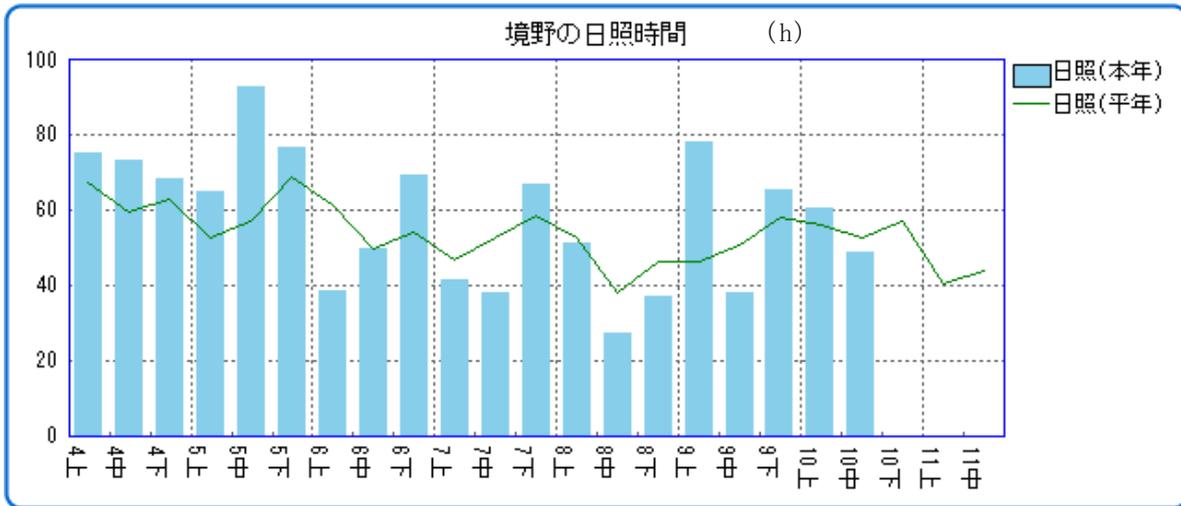
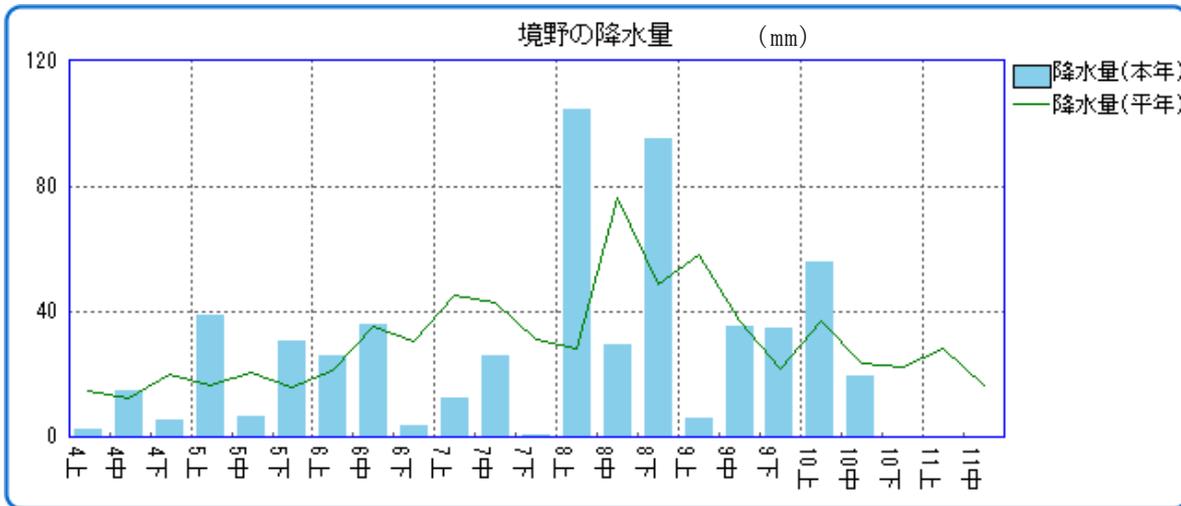
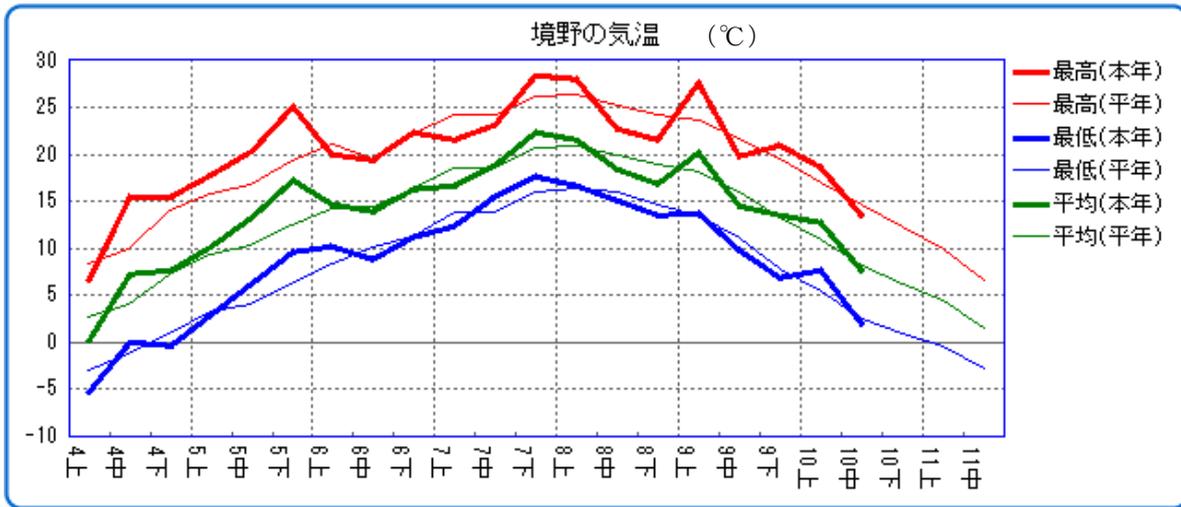
気 象 表

月 旬	平均気温(℃)			最高気温(℃)			最低気温(℃)		
	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
9月 下旬	13.4	13.3	0.1	20.9	19.5	1.4	6.9	7.8	-0.9
10月 上旬	12.7	10.9	1.8	18.6	17.0	1.6	7.6	5.4	2.2
10月 中旬	7.6	8.1	-0.5	13.4	14.6	-1.2	1.9	2.4	-0.5

月 旬	降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
9月 下旬	34.5	21.4	13.1	65.7	58.2	7.5
10月 上旬	56.0	36.5	19.5	60.8	56.3	4.5
10月 中旬	19.5	23.0	-3.5	49.1	52.7	-3.6

注) 観測値は置戸町境野のアメダスデータである。

10年平均は前10か年間の平均値である。



2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立総合研究機構北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、オホーツク管内全体を代表するものではありません。

1) とうもろこし(サイレージ用)

作 況：平年並

事 由：収穫期は平年より1日遅い9月25日であった。収穫時の稈長は平年より9cm短く、子実の熟度は黄熟中期と平年よりやや進み、総体の乾物率は平年並であった。乾物茎葉重は平年並で乾物雌穂重は平年よりやや少なかったものの、乾物総重および推定TDN収量は平年比98%および97%と平年並であった。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	チベリウス		
	本年	平年	比較
収穫期 (月.日)	9.25	9.24	1
収穫時の熟度	黄熟中期	黄熟初期	-
稈長(cm) (9月20日)	252	261	△9
生総重(kg/10a)	6236	6345	△109
乾物茎葉重(kg/10a)	888	879	9
乾物雌穂重(kg/10a)	957	1009	△52
乾物総重(kg/10a)	1844	1888	△44
同上平年比(%)	98	100	△2
推定TDN収量(kg/10a)	1330	1369	△39
同上平年比(%)	97	100	△3
総体の乾物率(%)	29.6	29.8	△0.2
乾雌穂重割合(%)	52.0	53.5	△1.5
有効雌穂割合(%)	100.0	99.3	0.7

注) 平年値は前7か年中、平成29年(最豊)、30年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 大豆

作 況：良

事 由：成熟期は平年より3日早い9月23日であった。主茎長、主茎節数は平年を下回り、分枝数も平年並であったが、着莢数、一莢内粒数は平年より多かった。子実重は平年比111%と多収であった。

以上のことから、目下の作況は「良」である。

調査項目	ユキホマレ		
	本年	平年	比較
成熟期 (月.日)	9.23	9.26	△ 3
主茎長 (cm) (成熟期)	61.1	68.1	△ 7.0
主茎節数 (節) (成熟期)	10.1	11.0	△ 0.9
分枝数 (本/株) (成熟期)	5.3	5.1	0.2
着莢数 (個/株) (成熟期)	72.9	67.2	5.7
一莢内粒数	2.04	1.90	0.14
子実重 (kg/10a)	390	350	40
同上平年比 (%)	111	100	11

注1) 平年値は前7か年中、平成26年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 子実重は水分15%換算。

3) 小豆

作況：良

事由：成熟期は平年と比べ「サホロショウズ」で3日遅く、「エリモショウズ」で1日遅かった。両品種とも、主茎長、主茎節数、分枝数は平年より少なかった。着莢数は「サホロショウズ」は平年より多かったが、「エリモショウズ」は平年より少なかった。一莢内粒数は「サホロショウズ」は平年より少なかったが、「エリモショウズ」はほぼ平年並であった。子実重は平年比110～115%と多収であった。

以上のことから、目下の作況は「良」である。

調査項目	サホロショウズ			エリモショウズ			きたろまん(参考)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
成熟期 (月・日)	9.29	9.26	3	10.2	10.1	1	9.27	9.30	△3
主茎長(cm) (成熟期)	71.3	78.1	△6.8	63.1	68.3	△5.2	57.1	72.8	△15.7
主茎節数(節) (成熟期)	12.5	13.8	△1.3	12.8	14.1	△1.3	11.9	13.3	△1.4
分枝数(本/株) (成熟期)	3.2	3.6	△0.4	3.3	3.7	△0.4	2.8	4.5	△1.7
着莢数(莢/株) (成熟期)	57.2	52.4	4.8	49.7	55.5	△5.8	54.5	48.7	5.8
一莢内粒数	5.37	6.14	△0.77	6.43	6.47	△0.04	6.20	6.60	△0.40
子実重(kg/10a)	402	365	37	444	386	58	458	356	102
同上平年比(%)	110	100	10	115	100	15	129	100	29

注1) 平年値は前7か年中、平成26年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

ただし、きたろまん(参考)は、前5か年(平成26～30年)の平均。

2) 子実重は水分15%換算。

4) 菜豆

作況：やや良

事由：着莢数、一莢内粒数とも平年並であった。百粒重は平年を下回ったが、子実重は平年比107%と多収であった。屑粒率は平年並であった。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	大正金時		
	本年	平年	比較
着莢数(莢/株) (成熟期)	20.0	20.3	△ 0.3
一莢内粒数	2.89	2.84	0.05
子実重(kg/10a)	324	302	22
同上平年比(%)	107	100	7
百粒重(g)	63.9	67.3	△ 3.4
屑粒率(%)	12.3	11.8	0.5

注1) 平年値は前7か年中、平成26年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 子実重と百粒重は水分15%換算。

3) 屑粒：[下屑粒]+[色流れ粒]

5) ばれいしょ

作況：やや良

事由：「コナフブキ」の枯ちよう期は平年より2日遅い10月6日であった。「コナフブキ」「コナユタカ」とも上いも数は平年よりやや少なかったものの、上いも平均重が平年より大きく、上いも重は平年比103%および98%と平年並であった。9月下旬以降の日照時間が多かったことから、でん粉価は平年より高く、でん粉重は平年比108%および105%とやや重かった。

以上のことから、前報の「男爵薯」と併せ、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	男爵薯			コナフブキ			コナユタカ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
枯ちよう期(月・日)	8.28	9.1	△ 4	10.6	10.4	2	—	—	—
上いも数(個/株)	11.8	10.7	1.1	10.0	10.8	△0.8	7.8	9.7	△1.9
上いも平均重(g)	98	96	2	116	105	11	183	151	32
上いも重(kg/10a)	5146	4540	606	5145	4998	147	6335	6449	△114
同上平年比(%)	113	100	13	103	100	3	98	100	△ 2
でん粉価(%)	16.7	15.3	1.4	23.5	22.3	1.2	23.3	21.9	1.4
でん粉重(kg/10a)	—	—	—	1157	1067	90	1411	1348	63
同上平年比(%)	—	—	—	108	100	8	105	100	5

注) 平年値は前7か年中、平成24年(最豊)、30年(最凶)を除く5か年の平均。

「コナユタカ」の枯ちよう期の平年値は未達である。

6) てんさい

作 況：平年並

事 由：収穫は、平年より2日早い10月18日に行った。この一か月間は気温が平年並で降水量が十分であったため、生育は順調に進んだ。移植栽培の2品種の糖量はほぼ平年並で、直播栽培の糖量は、やや平年を上回った。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	移植						直播		
	リッカ			アマホマレ			リッカ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
茎葉重 (kg/10a) (10月20日)	5005	4272	733	6168	5057	1111	4903	4520	383
根重 (kg/10a) (10月20日)	7835	7923	△88	7258	7409	△151	6864	6559	305
根中糖分 (%) (10月20日)	17.73	17.61	0.12	18.37	18.46	△0.09	17.46	17.68	△0.22
糖量 (kg/10a) (10月20日)	1389	1387	2	1333	1358	△25	1198	1153	45

注1) 平年値は前7か年中、平成26年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

7) 牧草(チモシー)

作況:不良

事由:3番草の収穫は平年より7日早い9月26日に行った。2番草収穫(7月30日)後は気温の変動が大きかったが、9月中旬は比較的冷涼かつ適度な降水があったことから、生育ステージがやや進み、3番草の乾物率は平年に比べて4.0ポイント高く、乾物収量の平年比は119%であった。しかし1~3番草の合計乾物収量の平年比は87%と平年を13%下回った。

以上のことから、目下の作況は「不良」である。

調査項目		なつちから		
		本年	平年	比較
刈取日(月.日)	3番草	9.26	10.3	△7
病害罹病程度	3番草	2.8	2.5	0.3
草丈(cm)	3番草	43	42	1
生草収量(kg/10a)	3番草	573	581	△8
	1~3番草合計	3,319	4,175	△856
乾物率(%)	3番草	30.5	26.5	4.0
乾物収量(kg/10a)	3番草	175	147	28
	1~3番草合計	831	953	△122
同上平年比(%)	3番草	119	100	19
	1~3番草合計	87	100	△13

注1) 平年値は前7か年中、平成24年(最豊)、27年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 病害罹病程度は、1:無または微~9:甚。病害は主に斑点病。